

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(西舎ユニット)		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成24年9月23日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「一瞬の笑顔を求めて」のもと認知症になっても、楽舎で命を輝かせて生きておられる事への支援を喜びとなるように頑張っている。地域へ元気の発信をしている。西舎は「楽しみを形にしよう 1人1人作品の大作作り」を目標に受継がれる大切な家紋を何カ月もかけてこつこつ全員が作る事が出来た。又、楽しみを形にしようという事で、家庭野菜を作り、毎日水やりなどの日課の成果で実った野菜を摂る楽しみ、食べる喜びを感じて頂ける様に支援している。職員も手の出しすぎない家事支援を目標に、入居者さんと、できる所は任せ、共同生活を楽しく過ごして頂く様に心掛けている。明るく楽しい雰囲気の中、職員との関わりの中で、絆を深め、「お父さん、お母さん」の存在でいれるような心地良い大きな家を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「東舎ユニット」に記載しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で暮らす。たとえ認知症になっても一瞬の笑顔で過ごしたい、わが身に置き換えて自分の事として取り込む姿勢を日々実践している。(入社時の新人研修にて理解、毎朝の理念唱和し実践)	※「実践状況」と「次のステップに向けて期待したい内容」は、「東舎ユニット」に総評して記入しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年1回の平田福祉フェスティバル(音楽療法の発表)など地域へ利用者さま全員と一緒に元気で参加!!今年で6回目の参加で、平田地域のみなさんも今年も楽しみにしていた。楽舎さんの歌を聞くと元気が出るとエールを送って頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の仲良し給食に招待されたり、小学生さん、ハッピークラブさん、中学生さんが地域貢献学習で、交流に訪問して下さり、楽舎のみなさんを通じてお年寄りを敬う気持ちを育む心、力に一役かっていると思う。楽舎にまた来ていいですか!→楽舎のおじいちゃん、おばあちゃん大好きとお話にくる。一文返事を出すなど今も交流が続いている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	楽舎の年間運営推進会議の計画、目的を打ち出し、認知症について説明し、楽舎の取り組みを伝え、その都度意見を取り入れ、振り返りをする事を重要としている。毎回10人~15人参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への陳情をしている。直接(グループホーム居室料、補助金)署名1万人分持参し、市長へお願いするなど、現状を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護研修などに参加し、楽舎にフィードバックし、カギをかけない支援方針を徹底している。スピーチロックなどについてスタッフ間でも互いに勉強し、取り組む姿勢がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さまの出来る事をきちんとアセスメントし、出来ない所はさりげなく出来るところまでスタッフが手を出しすぎないケアに取り組んでいる。葉など一連行為など出来る方まで手を出しすぎず、確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県の研修会に参加し、事業所にてスタッフで車椅子体験をしたり、フィードバックして理解を深めている。また、成年後見制度についてご家族に説明して利用もして頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または、改定等のご家族に説明し、理解を得て1/3以上のご家族の出席を持って同意を得ている。又、決定した事などはその都度全員にお手紙にて送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご家族の出席率もよく、テーマ(目的)を持って意見交換している。利用者さまの声は介護相談員の聞き取りや、ケアプランのモニタリング、毎日の会話にて情報収集し反映させている。面会時、病院受診後に必ずお話しさせて頂き(要望を書面にて残し)改善する様にしている。(介護録に残す)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの時、月1回の研修会、年1回の人事考課にて意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年の初めの目標、標語作り、人事考課、目標、振り返り、見直しを個人、ユニット、会社と向上心を持って取り組んでいる。必要に応じて個人面談を行い、スタッフの悩みや相談事を積極的に解決出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修など積極的に受講(勤務中)させるなどし、今年も多くのスタッフが免許や資格を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と懇親会、勉強会等の交流をしている。2か月に1回、又必要であれば随時行い、良いことであれば取り入れたり、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から利用者さまの何気ない一言もカルテに記録し、何種類かのアセスメントシート(人形アセスメント、できること・できないことシート、排便シート等)を作成した後、カンファレンスを開きスタッフ間で利用者さまの思いの把握・共有に努めている。ケアマネージャー、介護職、医師、ご家族やご本人等あらゆる視点でカンファレンスを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係	入居の経緯やご家族・ご本人の希望、要望など、入居時にお聞きし、しっかりと書面で残し、関わるスタッフ全体で把握する。それを元に、困っている事、不安な事に対し、どのような支援をするかスタッフで話し合っている。又、入居されていても、外出や外泊、面会等いつでもご家族と会える環境であることを伝え、絆が途切れないよう関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人と必要に応じて話し合いの場を設け、思いをきちんとお聞きし、その時その時必要なサービスがあれば柔軟に対応できるよう、関係機関との連携をしっかりと築いておく。(情報交換をしあう)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが手を出しすぎない家事支援を心がけている。見守りは必ずしながら、利用者さま同士での洗濯干し、掃除、食事作り、花の水遣りなど危ない所がなければひとつの簡単な作業は任せ、役割を持って頂くことで出来た時の達成感(感謝の言葉をかける)を味わってもらよう残存機能を活かした支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームに入居されてもご家族との関わりを大切に、1年に2回は必ず絆を深める大きな行事を実施している。(福祉フェスティバル・ありがとう会)毎年ありがとう会は出席率100%で、他の行事もご家族へ案内を出して一緒に楽しんで頂けるよう、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	衣替えの時期に、家へスタッフと一緒に季節の洋服を取りに行く方がおられる。その際にご近所さんとの関わりも忘れることなくあいさつしたり、コミュニケーションを取っている。又、ご家族と毎日FAXのやりとりをされたり、住みなれた地域へドライブに出かけたりして、馴染みの関係・つながりを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に固定ではなく、状態に合わせて席を変えてみたりテーブル配置もその時に合わせて移動している。(仲良しさんでグループを作ったり、男性は男性で話が合うよう隣同士に)皆さんが穏やかに過ごせるよう一人一人性格を把握しながら、時には間に入って会話の橋渡しをしたりと個別に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さまの方の入院、他施設への入居後も敬老会に赴いたり、自主的にお見舞いや面会に伺うようにしている。退居後の葬儀にも参列させて頂きご家族との良い関係を継続している。(助死師)又退居後もご家族からの相談に乗り、解決に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご本人、ご家族に要望はもちろん、ご本人の特技・好きな事(物)を伺い、記録し、スタッフ間で共有している。無理のない目標を立て、少しでも思いに近づけるよう支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には必ずご本人、ご家族に生活歴等細かく記入して頂き、把握に努めている。いつでも確認できるよう常時カルテに入れてある。(他サービス事業所・医療からの情報も)入居後もご本人、ご家族から得た新たな情報も随時追記してスタッフ間で共有し、支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り時、一人一人の心身状態を報告し、支援するにあたってのポイント、配慮すべき事をスタッフ皆で共有している。特記事項は申し送りノートに記載し、出勤時必ず確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング以外でもスタッフからの問題提起により検討会議を行い、ご家族に報告や相談しながら計画を作成している。必要に応じて福祉用具・ヘルパー・デイサービス・医療機関と連携を取りよりよい生活が送れるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	楽舎式毎日の記録にケアプランの目標について毎日評価ができるよう記録欄を設けている。気になる点、特記事項はアンダーラインを引いたり赤ペンで記録しスタッフ間で分かりやすいよう工夫している。記録時間にスタッフ間で実践について話し合ったり、確認しあったりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院時、スタッフが付き添いをしたり外部よりヘルパー、タクシーをご利用頂くこともある。コミュニティセンターでの俳句会参加の送迎も行なっている。又、本人さまの外泊も自由だが、ご家族が楽舎にいつでも泊まって頂ける様設備を整えている。毎週楽舎で一緒に昼食を取って帰られるご家族もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアで大正琴・ハーモニカ演奏・地元の小学校のハッピークラブ訪問など、地域の方との交流を積極的に行なっている。交流時は皆さんイキイキとした表情を見せられ豊かな暮らしにつながっている。楽舎で行事がある時は地域の方を招いたり、わがとこTVの取材を受けたりと楽舎から地域へ発信し地域の皆さんに楽舎のことを知って頂ける様働きかけている。(地域へ出かけて行く時協力して頂けるように)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医を決めて頂き、継続して医師と馴染みの関係を保ち安心して受診できるよう支援している。(往診2週間に1回あり)基本的には入居前に医師に見て頂いている。24時間つながっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カルテに個人のバイタルチェック表を作成し、その方の正常値・異常値・服用されている薬の作用など誰が見てもすぐ分かるようにしている。異常があればすぐに看護師へつなげている。(看護師から医師へ)入浴時も身体を観察し異常があれば医療へつなぐ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から医師、看護師、ご家族と話し合いの場を持ち、情報交換や今後の支援の方向性など相談して、本人様にとって一番良い支援を決めている。又、スタッフが面会に行くようにして、レベルが低下しないように積極的に話しかけるなど関わりを持つようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、病状変化はご家族にその都度伝えている。毎月のお手紙にも様子が分かるよう書いている。重度化した場合、今後どうするかをご家族と話し合い決めている。(入居の際、楽舎でターミナルは法令上しない方針であること。楽舎で支えられる状態を説明し、了解を得るようにしている)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな事でもヒヤリハットを書き、スタッフ一人一人対策案を考え、一言コメントを書くようにし今後につなげている。119対応訓練をし、119シートを前もって書き込める所は記入しておき緊急時素早く対応できるようにしている。個別に異常値、病歴など書き出して注意事項等把握に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は年2回実施し、その都度利用者さまの避難誘導をアセスメントして新たな問題点はないか確認している。消火訓練・非常連絡網の徹底(練習)、地域の住民も参加しての非難訓練も実施。ネームプレートを使って逃げ遅れがないか、又外部からの助け情報が分かるよう工夫。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さま一人一人に対して、普段の会話から丁寧に言葉を返している。入浴・排泄時にも羞恥心やプライバシーに配慮した声かけ、周りへの配慮など気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまから話しやすい雰囲気作りを心がけている。(笑顔・目線の高さ・待つ姿勢)次の言葉が出やすい様な声かけ(二択にする、耳の遠い方にはメッセージボード、ジェスチャーを交える)又、お茶の時間にはドリンクメニューがあり、皆一緒ではなくそこから好きな物を選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、一日の予定ということでお話はするが、その限りではない。まず利用者さまがその日何をしたいか、希望を伺う。利用者さまとよく話し、じっくりお話を聞いてさしあげる。それによって予定を立てる。(レクリエーション、献立、家事、入浴などなんでも)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみでは朝の整髪に始まり、毎朝・夕の清拭、更衣を促し清潔・メリハリを保っている。おしゃれでは、好きな洋服を選んでコーディネートして頂いたり、外出時には口紅などでその人らしいおしゃれを楽しんで頂いている。男性も毎朝ひげそりなど身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、お茶など一人一人の好みをお聞きし、調理に加わって頂きながら(食べたい物を作る)行事、風習、祭りごとなどのご馳走を共に作って楽しく食べて頂き、感想を伺いながら後片付けにも加わって頂いている。女性だけでなく男性の利用者さまも一緒に盛り付けなど得意な事で活躍して頂いている。肉が嫌いな方でも焼肉パーティーなどいつもと違うことをするとたくさん食べられ、満足そうにされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めの身体測定で利用者さまの体重増減が分かるので、1ヶ月2kg以上増減がある場合は看護師へもつなげ、食事量が確保できていないようなら栄養ある物や(必要ならエンシュア)食べやすい物を提供(おにぎり・パン)飲み込みやすい物を提供(お茶ゼリー・一口大にカット)水分制限がある方は毎日朝・夕体重測定をして水分量を把握し、水の制限ではなくコップのサイズを小さくしたり、味噌汁に塩を入れて塩分補給して頂きご本人に負担とならない支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずスタッフが付き添い・見守りをして歯磨き、舌磨きなど口の状態(入歯の状態)を見てその方にあつたケアを行なっている。(声かけのみ、見守り必要、一部介助など)口腔ケアを徹底することで、楽舎では発熱される方が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して定時以外でのトイレ誘導も行っている。水分補給の後も必ずトイレ誘導を行なっている。言葉で言えない方などサインを見のがさない様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを必ず行い、排便のない方にはいつもより多く水分補給して頂いたり、トイレ時や入浴時腹部マッサージをしている。あまり水分の取れない方はゼリーや好きな飲物にしたりと工夫して差し上げている。毎朝のラジオ体操や歩け歩け運動など毎日体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば入浴時以外の日でも気持ちよく入浴して頂けるように声かけ、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまが好きな時に自分のやりたい事が出来るように近くで見守りなど支援している。夜間は巡回時など睡眠の様子を見てトイレ誘導を行っている。空調を調節して過ごしやすくしたり、冬場は安眠ミルク(ホットミルク)提供して、気持ちよく睡眠していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さまの方の薬の変更があれば、カルテや送りノートに書いてスタッフ同志共有し、確認している。看護師も確認している。処方時には必ず薬事提供にてご家族より説明があり、看護師、スタッフは把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの生活歴を把握した上で家事支援をして頂いている。行事では年に1回運動会があり、その場で利用者さまに張り合いや喜びを感じて頂く。おかみさん→お盆拭きや皿拭き。自衛官のお父さん→体操を率先して頂く。舞踊りの先生→大正琴ボランティアや歌の行事ごと、前で主役に！！		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々との交流やご家族との連携などで娘さんの個展など見に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある方はご家族と外出する際は、スタッフルームに預けてある財布(現金)を持っていつも出かけ、欲しい物をご自分で買われ満足されている。銀行へご家族と行かれ、通帳を確認され安心されている。又、楽舎のFAXを使ってご家族とやりとりをされている方は毎月FAX代を預かり金から支払われ、安心してFAXを使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日のように娘、息子、孫さんとFAXによるやりとりをされている方は、遠く離れていてもお互いの様子が分かり安心されている。時々、スタッフも一言添えてFAXを送っている。又、お友達とお手紙のやりとりをされている方、ご家族と電話がしたいと言われる方には、ご家族の都合の良い時間を確認して電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の皆さんの作品を飾ったり(季節の貼り絵、見当識)利用者さまが昔趣味で作られた「刺し子」の作品を廊下の皆さんが見える所へ展示して、栄光時代のお話に花が咲いたり、生きがいを作り出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル、イスの場所が気の合うグループになっており、くつろげる空間となっている。又、ソファ、ベッド、畳みなどリラックスできるようなスペースが作ってある。廊下には畳みベンチがあり一休みしながらおしゃべりできたり、ホール畳みには座椅子や枕、クッションがあり自由に休憩できたり交流の場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用されていたなじみのタンスなど見慣れた品を配置してすぐに慣れられるよう配慮している。ご家族と相談しながら、移動しやすい(生活しやすい)よう配置している。居室に仏壇があったり、作業台があったり、畳を敷いておられる方と様々。リスクマネジメントをし、TVを固定したり、角へクッションテープを貼るなど安全面にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーが見やすい位置に張っており、日付が確認しやすいようになっている。一日のおおまかな流れも見えるところへ貼っており、メリハリある生活が送って頂けるよう支援。貼り物は全て目線の高さで分かりやすく、段差や取っ手、スイッチなどには赤テープで見やすく、注意を促している。		